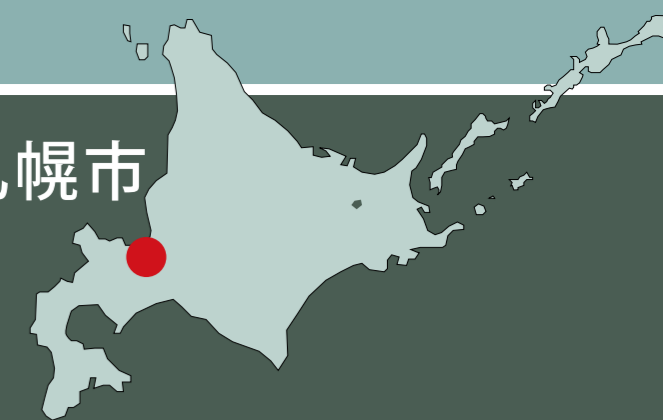


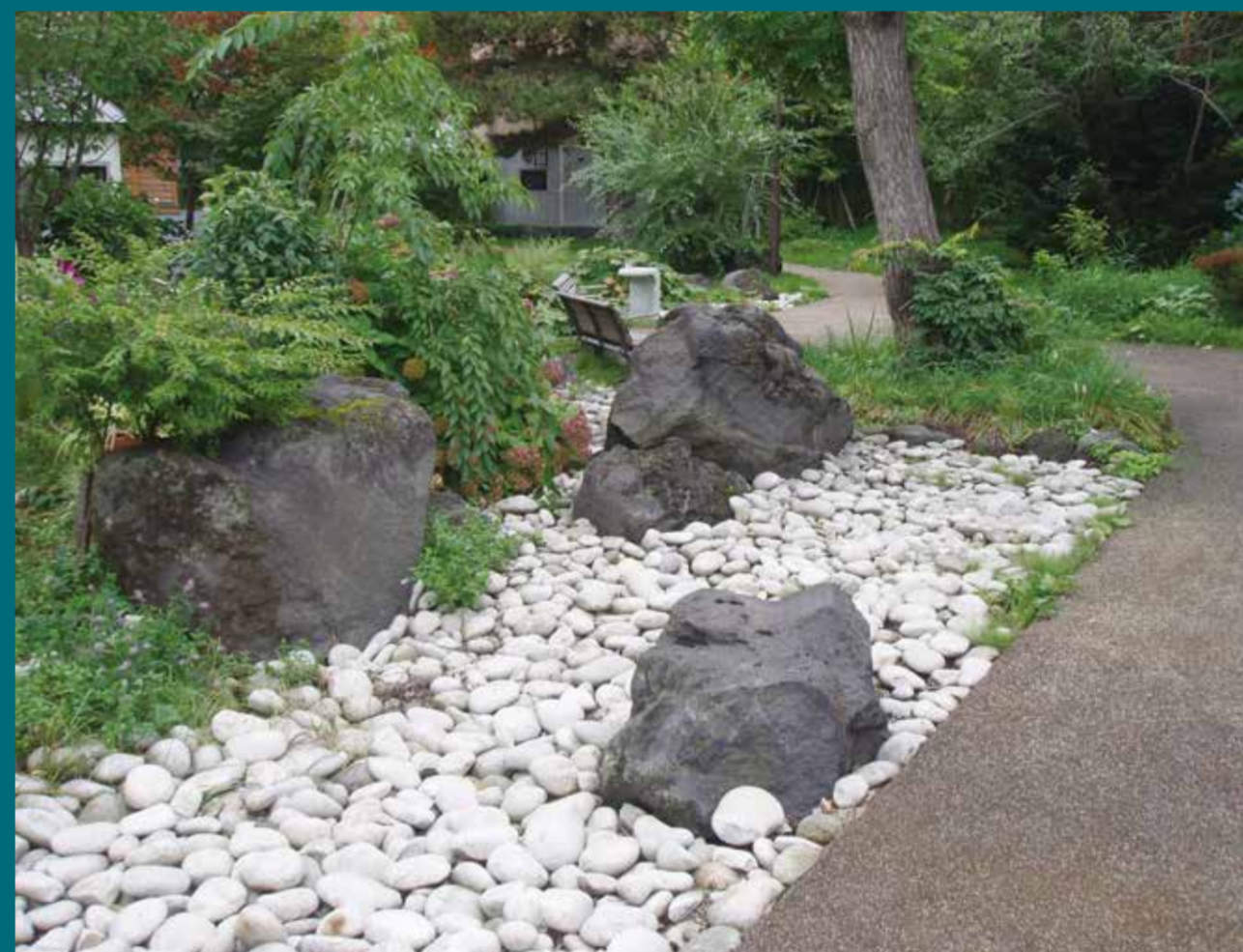
清華亭と旧偕楽園周辺 (札幌市)



天皇の貴賓接待所として建てられた清華亭

我が国最古の公園の名残

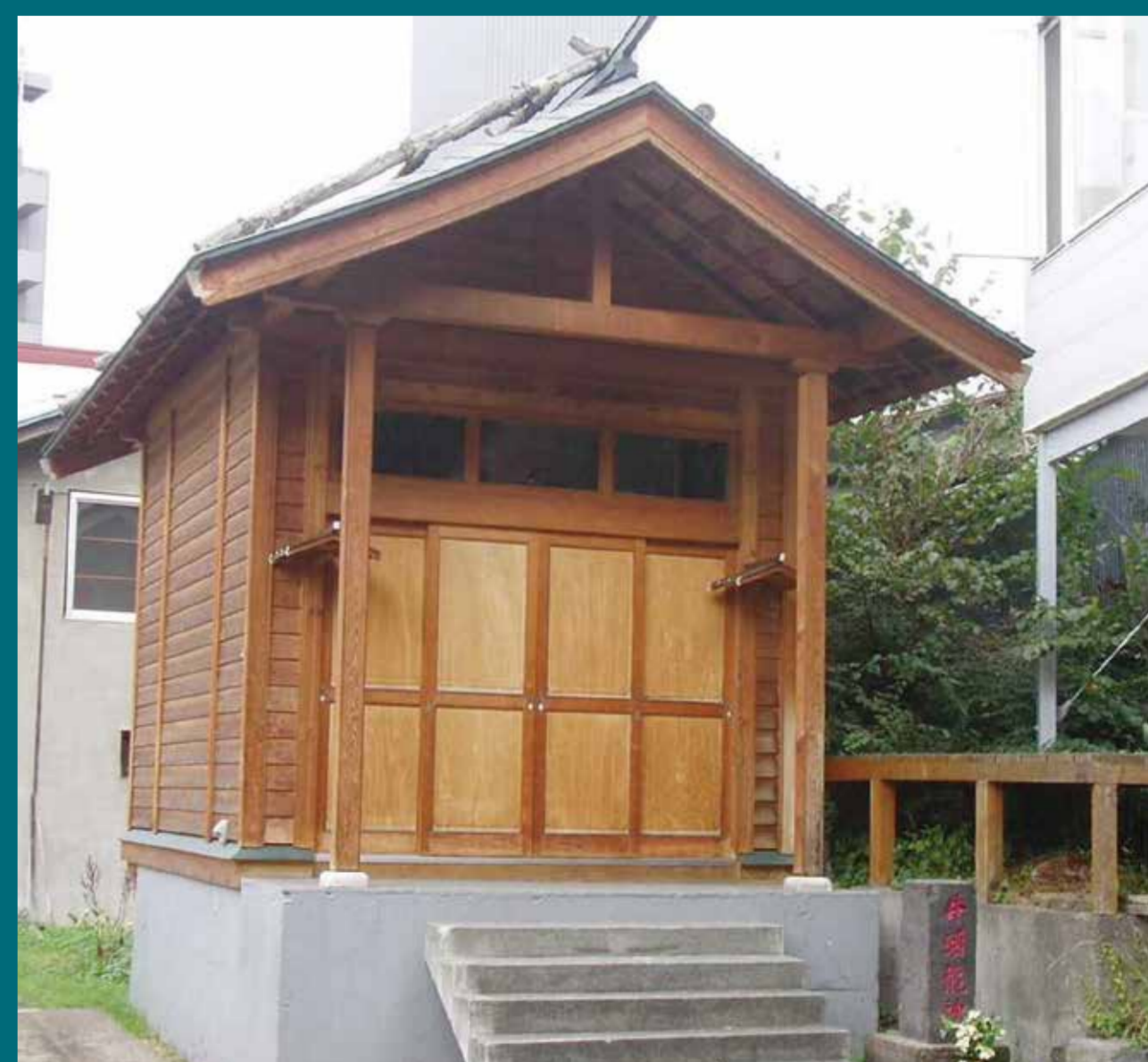
札幌市指定有形文化財の清華亭周辺に展開していた偕楽園は、1871(明治4)年に岩村通俊判官によって計画的に設置された我が国最古の公園であったが、実際の機能は産業振興を目指した勸業施設用地でもあった。1880(明治13)年に翌年行幸の明治天皇貴賓接待所として清華亭が建てられ、1897(明治30)年には偕楽園一帯が民間に払い下げられ、公園の姿は失われた。さらに都市開発の影響で1951(昭和26)年頃には「ヌプ・サム・テム」(野の傍の泉池)の水脈も枯れ、地域有志が建てた「井頭竜神」^{いのかみ}祠堂も撤去されているが、起伏のある地形とかつての池や川跡が「偕楽園緑地」として整備され、かつての偕楽園の面影をかりうじて伝える。歴史的価値の高い清華亭と同庭園及び偕楽園緑地とが一体として保全整備されることで、本遺産の価値や魅了度がさらに高まる可能性を有している。



かつてのテムや流れの痕跡は、偕楽園緑地として残されている

概要

名称	清華亭	偕楽園緑地
所在地	札幌市北区北7条西7丁目	
管理者	札幌市	
規模	床面積 129.99㎡	2,797㎡
種別等	有形文化財	都市公園
開設年	1880(明治13)年建造	1998(平成10)年8月11日都市計画決定
指定年	1961(昭和36)年6月7日指定	2002(平成14)年3月29日告示
その他	札幌市指定有形文化財	



2021年10月に撤去された井頭竜神